

(1) ドライアイ

何度か当コラムでも取り上げてまいりましたが、冬は乾燥の影響が身体に出易い季節です。

一般的に、眼の表面が乾燥してゴロゴロし、目やに・目のかすみや疲れ・充血など、さまざまな症状が出る状態のことをドライアイといいます。

特にパソコン画面を見つめているときは、まばたきの回数が減るだけでなく、眼球表面から蒸発する涙の量も多くなり、目が乾燥してしまいます。

また、コンタクトレンズを長時間使用している方、特殊な疾患の方などにも乾燥症状が現れます。

治療のためには、ドライアイの程度を調べる検査が必要です。

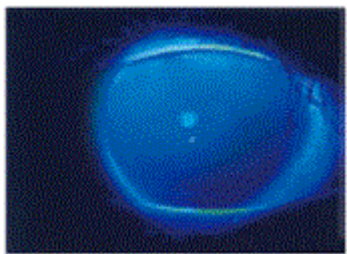
そのひとつが BUT テストです。

(2) 涙液層破壊時間 (BUT) テスト

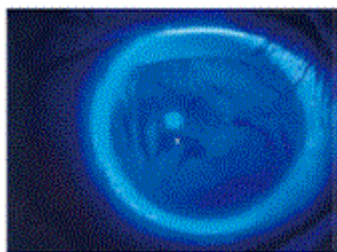
目の表面を覆っている涙が、どのくらいの時間で乾燥し始めるかを調べる検査です。

フルオレセインという色素を点眼し、細隙灯 (スリットランプ) で青色光を用いて目の表面を観察すると、涙に混ざった色素が緑色に見えます。

まばたきを止めて、真っすぐ正面を見ていると、しだいに目の表面が乾いて色素が消える部分が出現します。この時間を BUT (Tear Break Up Time) と呼び、10 秒以上が正常、5 秒以下ならドライアイの可能性が高いと言われています。



←涙が眼全体に広がっている状態



←涙の層が切れて (黒い部分)、眼の表面が空気中に晒されている状態

(3) 当院の取り組み

ゆたに眼科では、ドライアイの訴えのある方はもちろんのこと、コンタクトレンズユーザーの方にも、医師の判断のもと、BUT 検査を積極的に実施しています。

コンタクトレンズを快適にご使用になるには、適切な装用時間を守ることと共に、眼の乾燥を防ぐことが重要なポイントになるからです。

何か気になる症状のある方は、ご遠慮なく当院の医師にご相談くださいませ。